

## ウサギの生態観察調査について

### 1. 生態観察調査の背景と目的

犬猫以外の哺乳類に関する飼養管理基準の検討にあたっての参考情報として、ウサギに関する①運動スペースの必要面積及び高さ、②運動スペースに置く時間及び③分離型ケージの必要な面積及び高さ等について、動物行動学の観点から調査を行うもの。

### 2. 調査方法

現行の飼養管理基準では、「犬及び猫以外の動物のケージ等は、個々の動物が自然な姿勢で立ち上がる、横たわる、羽ばたく等の日常的な動作を容易に行うための十分な広さ及び空間を有するものとすること。飼育期間が長期間にわたる場合にあっては、必要に応じて、走る、登る、泳ぐ、飛ぶ等の運動ができるように、より一層の広さ及び空間を有するものとする。」と規定されている。

本調査では、ウサギが日常的な動作を容易に行うために必要な面積等および運動に必要な面積等を確認するために、動物行動学の観点に基づき調査方法（品種、頭数、期間、運動スペースの広さや運動時間など）を検討し、調査を実施。

#### ▶ 飼養スペースと実施概要

(1) 下記条件でウサギを飼養し、6日間（各24時間）の行動を映像で記録。

- 1) 運動スペース分離型飼養のケージ（以下「分離型ケージ」とする）の場合
  - ・ 基準とする分離型ケージの床面はウサギの頭胴長の2倍幅×1.5倍奥行とし、高さに制限のない状態（屋根なし）とする。
  - ・ 1日3時間、運動スペース（分離型ケージの2倍もしくは4倍、6倍の床面積）におく。
- 2) 運動スペース一体型飼養のケージ（以下「一体型ケージ」とする）の場合
  - ・ 単数飼養では、分離型ケージの2倍・4倍・6倍の床面積とし、高さに制限のない状態（屋根なし）とする。
  - ・ 複数（2頭飼養）では、分離型ケージの4倍・6倍の床面積とし、高さに制限のない状態（屋根なし）とする。

(2) 映像から行動と姿勢、位置を抽出し、各条件下におけるウサギの行動レパートリーや移動量等を解析、条件間での比較を行う。

### 3. 今後のスケジュール

本調査に関する解析結果や条件間での比較結果については、次年度以降に報告予定。

(以上)